

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年11月20日

【評価実施概要】

事業所番号	0572306934
法人名	医療法人 正和会
事業所名	グループホーム まめだすか
所在地	〒018-1401 秋田県潟上市昭和久保字街道下119 (電話)018-877-7555
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1番地の1
訪問調査日	平成21年11月20日

【情報提供票より】(10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)13年12月20日
ユニット数	3ユニット 利用定員数計 27人
職員数	24人 常勤21人, 非常勤3人, 常勤換算22.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000~36,000円	その他の経費(月額)	実費相当額	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	380円	昼食	380円
	夕食	390円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	25名	男性	7名	女性	18名	
要介護1	3	要介護2	3			
要介護3	6	要介護4	5			
要介護5	7	要支援2	1			
年齢	平均	81歳	最低	64歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小玉医院 南秋田眼科 南秋田整形外科 おおくほ歯科診療所 藤原記念病院 ハートインクリニック
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人正和会が運営する3ユニットのグループホームは新興住宅地の中に位置し、近くにはJRの駅やスーパー、公共施設、道の駅などがあり利便性が良い。ホームは福祉エリアの一角にあり、介護老人保健施設、訪問看護ステーション、医院、眼科、整形外科、歯科が併設されており、緊急時の対応などがスムーズに行える。「明るく楽しく 元気よく」という理念の基、利用者とは深く関わられるように、今年度から行っている同法人の他グループホームとの施設内研修を生かし、職員の知識、技術、興味を広げ、意識の統一を進めている。更に、職員の個性や資格(インテリアコーディネーター、理容資格)などの技術も取り入れ、ホームの支援に生かしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題に重点を置いた取り組みをしている。ホーム内の施設は夜間のみとし、日中はユニットの扉もオープンになっている。金銭の立替に関しては、重要事項説明書に取り決め事項を記載しており、希望がある場合はお金を渡し、個人の金銭出納帳を作り買い物の機会を設けている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員で年2回の自己評価に取り組んでおり、評価を基に話し合い改善につなげている。気兼ねなく評価できる職場環境となっており、普段の支援を振り返る良い機会となっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 年6回の運営推進会議には、家族、市議会議員、地域の代表の参加があり、適宜コメントを得ている。参加は得られていないが、市の高齢福祉課や包括支援センターには参加を文書等で依頼している。今年は新型インフルエンザのため開催回数が少ないが、その旨連絡をしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族からの口頭や意見箱による意見や苦情には速やかに対応し、報告もなされている。家族会の資料はホーム内の面会簿の隣に置かれ、面会時に閲覧しサインをいただくようになっている。また、月に1度ホーム便りを発行し、個々の生活状況については手紙で伝えている。職員の異動等も便りを通じて報告し、家族の不安を取り除くようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 新興住宅地にあり、町内会は活発ではないが、近くの公園への散歩時等に地域住民との交流がある。食材配達業者が協力的であり、ボランティアによる茶会や踊りの披露が定期的に行われている。町内のお祭りや文化祭、福祉エリア内にある託児所の敬老会へも参加している。

2. 評価報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るく 楽しく 元気よく」という理念の実現のために、毎年利用者、家族、職員で理念内容のカンファレンスを行い、ユニットごとにスローガンを掲げて共有化を図っている。運営方針には地域との結びつきが盛り込まれており、地域の中のサービスが重視されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットの見やすい場所に理念が掲示されている。職員に理念に対するアンケートを取り、職員間でずれがある場合は適宜話し合い、意識向上につなげている。常に携帯する小さいノートに理念を貼り、休憩時間等に目を通して振り返る機会を設けるなど、職員の意識も高い。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には法人として加入している。広報は法人に届いたものを回覧し、地域の様々な情報を得ている。新興住宅地にあり町内会は活発ではないが、近くの公園への散歩時等に地域住民との交流がある。食材配達業者が協力的であり、ボランティアにより茶会や踊りの披露が定期的に行われている。町内のお祭りや文化祭、福祉エリア内にある託児所へも参加している。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組んでおり、評価を基に話し合い改善につなげている。気兼ねなく評価できる職場環境となっており、普段の支援を振り返り気づきの良い機会となっている。評価の意義を職員全員が理解しており、前回の外部評価の改善課題に重点を置いた取り組みがなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>年6回の運営推進会議には、家族、市議会議員、地域の代表の参加があり、適宜コメントをもらっている。参加は得られていないが、市の高齢福祉課や包括支援センターへ参加を依頼している。今年度は新型インフルエンザのため開催回数が少ないが、家族等にはその旨連絡している。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>潟上市より委託され、法人で運営している生活支援ハウスがあり、様々な情報交換が行われている。南秋グループホーム連絡会による市担当者との懇談会にも参加して情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。</p>		
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に1度ホーム便りを発行し、個々の生活状況は手紙で伝えている。職員の異動がある場合もホーム便りを通じて家族へ連絡している。家族会の資料は面会簿の隣に置かれ、面会時に閲覧しサインをもらうようになっている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会や運営推進会議、面会時に口頭や意見箱に寄せられた意見や苦情には速やかに対応され、報告がなされている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>3ユニットの利点を活かして普段から職員がユニット間を行き来し、臨機応変な対応がなされており、職員の異動による混乱も見られない。また、異動があった場合はホーム便りを通じて家族へ報告している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>同法人が運営する他グループホームとの施設内研修を行っている。外部研修にはチーフやサブチーフの参加が主だが、伝達研修が行われ全職員への周知が図られている。各資格を取るためのサポート体制が整っており、人材育成にも努めている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>南秋グループホーム連絡会の勉強会や他のグループホームとの交流見学会といった機会を活かしている。同法人が運営する他グループホームとの施設内研修を行い、資質の向上に努めている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に見学してもらい、これまでの生活を家族や本人から可能な限り聞き取っている。様式はケアマネジメントセンター方式を活用し、生活歴の把握、環境の整備に努めている。また、協力を得られる限り利用者が以前に使用していたものを持参してもらい、なじみの環境で生活できるよう配慮している。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者のペースに合わせ、手伝いをさせていただいているという気持ちで利用者に接している。洗濯は職員が仕分けをし行っているが、干し方や畳み方、また調理の仕方や味付けなど、利用者から学ぶことも多い。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1.一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者との会話や、家族の面会・連絡時の話し合いなどから、希望や意向の把握に努めている。3ヵ月ごとのケアプラン作成時には利用者や家族から意向を聞き、プランに反映させている。</p>		
<p>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族の意見も聞きながら、毎月のカンファレンスで話し合い、ケアプランにつなげている。問題を抱えているケースについては、問題点、原因、解決策をシートで分かりやすく整理しながら話し合いを行っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の状況に変化が生じた時は、適宜見直しが行われている。変化がない場合でも、プランを一旦終了して新たなプランを作成したり、プランの優先順位を変更したりするなど、全利用者に対する見直しが適切に行われている。</p>		
<p>3.多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>敷地内に同法人の医療機関があり、早期退院しホームで生活しながらの治療、終末期の往診といった体制が取られている。ホームの機能を活かし、利用者の自宅訪問も行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	43	<p>かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者のほとんどが同法人の医院をかかりつけ医にしているが、利用前には必ず一人ひとりのかかりつけ医を聞き、確認している。法人以外の病院への通院については、家族の協力を得ながら職員が付き添い支援をしている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>これまでターミナルケアを希望する利用者、家族はいなかったが、医師の指示や家族の希望を基にターミナルケアを希望する場合は、対応するための仕組みが整っている。また、生活場所の変更の希望等があればそれに向けた取り組みを行っている。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1.その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーに配慮し、自尊心を損ねないようにさりげない声かけが行われている。記録類は職員以外の目に触れないよう配慮され、重要書類は鍵を掛けて保管している。施設内研修を通じ、職員の資質の向上にも努めている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員の都合を押し付けることなく、入浴も日中であれば利用者が希望する時間に行っている。食事のメニューも利用者に合わせて調理方法を変えるなどの対応をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同法人の老人保健施設の管理栄養士が作成した献立を基に、ユニットごとに調理している。ミキサー食でも食事の意欲がわき、楽しみながら食べられるような声かけ等の配慮を行っている。また、和やかな雰囲気の中で、できる限り自分で食べられるようにさりげなく介助等の支援をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を好まない利用者には、タイミングを計りながら毎日声かけをし対応している。他の利用者と一緒に入りたいという希望がある場合は、家族からも了解を得ている。勤務の関係から同性介助の実施に苦慮している面もあるが、希望があれば都度対応している。月2回湯船に季節のものを入れ、楽しんでもらっている。		3ユニットある利点を生かし、入浴時の同性介助体制を確保するための臨機応変な対応が望まれる。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	共に支えあうということを大切に、調理などできること、得意なことを発揮してもらう働きかけがなされている。ホームの中に閉じこもりように町内の行事に参加したり、外出する機会を多く設けており、希望があれば買い物や自宅訪問を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や希望に合わせて園外散歩やドライブを行っている。車椅子や歩行の困難な利用者も近くの公園へ散歩に出かけたりし、地域の子どもたちと交流する機会になっている。今後は、ホーム便りを地域住民のお宅へ利用者と一緒に配ることを予定している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中は玄関、ユニットをつなぐ渡り廊下も開錠している。職員が手薄になることや、防犯の観点から夜間のみ施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回、日中想定と夜間想定避難訓練を3ユニット合同で行っている。新興住宅地にあり、地域からの協力は難しい面もあるが、敷地内の生活支援ハウスからの応援体制が整っている。また、新任研修時に非常機器(ストレッチャー等)の使用方法について講習が行われているほか、救急救命講習にも数名が参加し、伝達研修が行われている。</p>		<p>地域からの協力が難しい面もあることから、救急救命や非常機器の使用等に関わる講習の機会を多く持ち、特に夜間における職員の不安の解消につなげて欲しい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>同法人の管理栄養士が、栄養バランスに配慮した献立を作成している。調理はユニットごとに行い、利用者に合わせて味付けや調理の仕方を変えたりするなど、きめ細やかな配慮がなされている。</p>		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホーム内は明るく、利用者が掃除を行う場合は職員も仕上げの掃除を行うなどして清潔さが保たれており、気になる臭いも感じられない。ユニットごとに季節感のある装飾や利用者の作品を飾るなど、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には利用者が以前使用していたものやなじみのものが置かれ、できる限り利用前の生活の延長上で暮らせるように配慮した環境作りがなされている。</p>		

は、重点項目。